

池上委員長が 5 分半程掛けて新任の挨拶を述べた後、野本委員の退任と井上委員が常勤委員として就任した事を報告した。其の後、井上委員が 1 分半ほどの挨拶を行った。

池上委員長: 其れでは定刻になりましたので、第 2 回宇宙開発委員会を開催致したいと思えます。宇宙開発委員としてですネ、3 年 10 カ月、宇宙開発委員長として 3 年間ご苦勞頂きました松尾委員長が 1 月 5 日にご退任されまして、1 月 6 日付で私が新しく委員長職に就くと云う事になりましたんで、宜しくお願い致します。で、一言就任のご挨拶をさせて頂きたいと思うんですが、皆さんご案内の通り今年の元旦の早朝は月が非常に素晴らしかった。あれはブルー・ムーン¹で云う風に呼んでるそうなんですが、月と火星が非常に綺麗に見えましてですネ、で、しかも最近地球環境問題等々が色々言われる様になって、我々が考える時間軸が伸びた様な感じがする訳なんです、その、月と火星を見ましてですネ、宇宙開発委員会ってのは大変な事をやってるんだナと、で、其処の委員長になるって事は大変な事だナと云う風に、実は実感を致しました。月にしても火星にしても、人類のフロンティアへの、或る意味じゃ新しい挑戦と云う事になる訳であり

¹ 会議終了後異論があったので、辞書で調べた。Blue moon: 青い月 大気の状態によって青く見える月、ブルームーン ひと月に 2 回満月があるときの 2 回目の満月、ブルームーン 一つの季節(3 カ月)に 4 回満月があるときの 3 回目の満月、めったにないこと 【参考】once in a blue moon (以上)

まして、矢張り宇宙科学をバックにですネ、宇宙開発ってのは進めて行かなければいけないと云う風に、まあ覚悟した訳で御座います。

一方、宇宙開発の現状はって言いますと、まあ、世界全体として新しい段階に入ってます。で、日本でもですネ、宇宙開発基本法が出来²まして、で、ま、此れまで我々宇宙開発委員会って云うのは科学技術に特化していました³ネ。で、今後はですネ、国の安全⁴、或いは産業振興、或いは宇宙外交についても見ながらやってく必要がある⁵と云う事で、ま、新しい体制を作ろうと云う話が進んでおりまして、現在戦略本部で色々検討していると云う事を、我々は十分承知して居ります。で、宇宙委員会は、ですから、今後どうするか、

² 宇宙基本法は新たな変化ではあるが、其れだけを根拠に世界全体が新しい段階に入っているとは言えない。ISS 計画で、米国政府や NASA は火星に向けての一里塚であると再三発言して来た。池上委員長自身が、「自分は大きな歴史的変革点に居る。」と思いたいのだろうか。

³ 予算配分からすれば、宇宙活動の最大のインフラである打上げシステムの開発と、実用衛星の開発が重点であった。「宇宙科学に特化」していたとは言えない。

⁴ 極めて大事な要素であるが、言葉の定義が多様であり、此れだけの短い言葉では意味する処を把握出来ない。

⁵ 此れも大切な要素であるので、言及する事自体は歓迎する。しかし、「外務省との連携を一層強化する必要がある。」とか、もう少し方向が分かる表現が欲しい処である。科学者と技術者に外交を任せる様な事は、国を危うくする心配がある。

まあ、何れ体制が変わると言う中でですネ、此の儘ではなくなると言う事はまあ、十分承知してる訳で御座いますけれど、ま、私としては基本法に載っている様な、ファンクションを持つ様な、新しい組織を、まあ想定して、或いは前提にして、或いはそのイメージを作りましてですネ、で、其処に向けての、ま、経過措置って言うんですか、其れを色々考えて行きたい⁶と云う風に思っています。で、此れはあの、例えば NASA の場合ですと Transition と言うフェーズが非常に明確に言われてる訳なんですけど、まあ、謂わばトランジションみたいな役割を、此の暫くの間宇宙開発委員会がやってく必要があるんじゃないかと云う風に考えて居ります。

それから後、具体的はですネエ、ま、夫々がですネ、得意技を持って色々やってる訳なんですけど、ま、其れに対して縦割りと言う様な言い方とかですネ、まあ、色々批判が無い訳じゃないんですが、ま、私は夫々が持っている得意技を活かすと云う事を、先ず第一に考えて行きたいと云う風に思っています。で、従いまして、其の各得意技を活かすと云うのは、まあ良く言われるシナジー効果⁷でありまして、日本全体としてそれぞれの得意技を、ま、宇宙開発と云う点で活かせる様な、そう云うシナジー効果って云うのを考えてやって行きたいと。で、私、今迄の経験からですネエ、ま、現場第一と

云う事でやって来ておりました、其れどう云う事かって言いますと、実際に成果を産み出すのは政策とかそういう高いレベルではなくて、で、その、現場で以て成果ってのはまあ、産まれて行く⁸訳です。で、あの、私の感じでは、行政は行政で非常に頑張ってるって云う風に思う、思っているんですが、寧ろその、研究の現場とかですネ、開発の現場、或いは製造の現場が、必ずしも元気になっていないと。で、其処を是非元気にさして行きたい⁹と云う風に思っています。

それと、我々何時も忘れていけないのは、宇宙開発は国が中心になってやってるって云う事は、まあ、税金を使わせて頂いてるって云う事で、ま、其れについては常に頭に置いて行かなければいけないと云う様な事で、で、寧ろその税金を出してる側から言いますと、「夢」って云う事もあるかも知れませんが、具体的な成果がキチッと生まれると云う事を、当

⁶ 此れも良く伝わって来ない表現であり、また、此の後の「トランジションみたいな役割」も伝わって来ない表現である。

⁷ 異なる得意技を持つものが集い、一致協力して課題に向かうとシナジー効果が期待できるが、此の表現では短絡的である。

⁸ 役割が違うだけであって、対比させて議論すべき対象ではないと思う。また、「成果」が考えの中心にあり、其れが強過ぎるのではないかと危惧する。

⁹ 必要な予算が確保され、梯子が外される心配のない事が「元気」に繋がると思う。宇宙関連予算をもっと欲しいと思う方々は大勢いらっしゃるし、他の分野の方々は宇宙関連の予算を回して貰いたいと考えて居らっしゃる。今の予算規模を拡大するか縮小するか議論する事は大変難しいが、現状で既にかなり大きな予算規模である事だけは確かである。「元気にさせる」とは、「予算を拡大させる」事とほぼ同義である事から、委員長就任早々、軽々に言及すべき事ではない様に感じる。

然期待してる¹⁰と云う風に思いますので、其れについては十分に配慮して行きたいと云う風に思っています。

それから後は、あの、宇宙科学を含めましてですネ、矢張り市民或いは国民全体のサポートが必要であって、で、其の為にも、今迄やって来ております様に、宇宙開発関係の会議についてはオープンな形でやってきたいと云う風に思っています。

そう云う事で御座います、中々大変では御座いますが、是非ご協力を頂けたらと云う風に思っています。

池上委員長：宇宙開発委員をご紹介します。野本陽代氏が、宇宙開発委員(非常勤)でご退任¹¹されまして、で、又、新しく井上一氏が宇宙開発委員の常勤委員にご就任される事となりました。

¹⁰ 「国民の夢を担う」だけが役割であるならば、此れだけ高額の予算を注ぎ込まないと思う。また、実用衛星で具体的な成果を求める事を急(せ)いてもいけないと思う。此の先の議論が繊細で、重要なのである。

¹¹ 「再任」と仰ったのを「退任」と聞き誤った。再度聞き直したが、どちらにも取れる曖昧な割舌だった。また、新任の井上委員のご紹介との間を、「で、又、」と繋ぎ、「松尾委員に代わり」と云う様な付言を付けなかった為、「野本委員に代わって井上委員」と誤解し易さを助長した様だ。以下のコメントは誤解の上で書いたものであるが、其の儘残す事にした。取り消し線以外の部分は、多少「言葉」や語尾を選び直せば、通用する指摘だろうと思う。

野本委員に於かれましては、サイエンスライターとして、知識と経験を十分活かされ、引き続き産学官連携を含め、宇宙開発の最前線と社会の間のパイプ役的存在としてご活躍して頂ける¹²ものと、大いに期待して居ります。

¹² 「サイエンスライターとして」と云う言葉が、「宇宙開発委員としての貢献」を語る導入かと思って聞いていたら、今後の活動の肩書であった。また、今後の活動に対する期待を述べているものの、宇宙開発委員としての貢献に対する謝意は述べて居ない。更に、「サイエンスライターとして産学官連携のパイプ役として活躍して頂ける。」とも期待している。これは文筆業の責務を越えないか。

そもそも、従来の宇宙開発委員は、宇宙分野の経験者、自動車や鉄道と云う機械システムの経験者、家電や通信システムと云う電子システムの経験者で構成されていた。其処に、サイエンスライターと云う異なる分野に居らして、宇宙関連の活動に造詣の深い野本委員を加え、より広い視点で今後の宇宙関連活動の舵取りをしようと考えたのではなからうか。池上委員長が「就任挨拶」で触れた「国民のサポート」を獲得する上で、最も効果的な発言・助言をされて来た委員だと小職は思う。科学者や技術者が日頃使用する言葉ではなく、国民が日頃使う言葉で宇宙活動を広報する能力は、余人を以て代え難いものがあると思う。

~~委員の人事は文科省の職掌であり、委員長の意図とは関係しないのだから、送り出す言葉の行間から感じ取れるものの中に、「国民のサポート」の実現に向けた野本委員の貢献に対する謝意が感じられない処が寂しい。~~

~~現時点で宇宙開発委員は4名で、1名の減員である。何方か新たに委員に任命されるのであろうか。~~

それから、井上委員につきましてははですネ、宇宙科学の内の特に X 線天文学を専門として居りまして、JAXA 宇宙科学研究本部に於きましては、「すざく」等の X 線天文観測プロジェクトの中核を担われた共に、宇宙開発研究本部長として、国内外のコミュニティの信頼を得て、我が国の宇宙科学全体を此れ迄牽引されて来られました。また、平成 19 年 2 月より、科学技術学術審議会の学術分科会の委員を務めた経験もお持ちで御座いまして、此の様な方に加わって頂きまして、大変心強く思う、あの、私考えて居りまして、是非委員の豊富な知識、ご経験を十分発揮して頂けたらと云う風に思っています。

で、それでは新しく就任されると云う事で、井上委員の方から何か一言頂けないでしょうか。

井上: 今、ご紹介頂きました様に、新しく宇宙開発委員になる事になりました井上で御座います。宜しくお願い致します。今、ご紹介頂きました様に、私自身は天文学の研究者で、まあ、今でもそうであると思っておりますけれども、其の研究の過程で、宇宙空間を使って宇宙の観測をすると云う事を専ら研究のテーマとして参りましたので、まあ、科学衛星の開発にも随分関わらせて頂きましたし、最近 JAXA の下で宇宙科学に責任を持つ立場と云う事で、広く宇宙開発に係る部分についても色々議論をさせて頂いて参りました。

そう云う意味で、まあ今迄は宇宙科学をより良くする為に、色々お願いをさせて頂く立場だった訳ですけども、少し広い

立場から、宇宙科学に対しては一種のご恩返し¹³、それからまあ、宇宙開発に対しても広い意味での、或る意味でのご恩返しをさせて頂ければと思っております。どうか宜しくお願い致します。

池上委員長: どうも有難う御座いました。宜しくお願い致します。それでは今日の議題に入りたいと思います。

¹³ 期待出来る言葉を選んで頂いた様な気がする。自分自身の今後の事よりも、宇宙分野で働く人々の今後の事を優先して考えるという気持ちが感じられる言葉だろう。